

平成28年度： 東京事業所の課題と方針

部	門	計 画 立 案 者
施 設	長	我 謝 悟

昨年度は、杉並区において、児童発達支援事業を区の委託を受けてスタートすることができた。東京事業所として、高齢者福祉事業だけでなく、障害者福祉事業にも取り組めたことはこれからの展開に大きな一歩になった。これを踏まえて、今年度は、新しい総合事業への取組や、IT化も含めた業務改善、事業の再検討を具体的に行っていかなければならない。また社会福祉法人として、地域包括ケアシステムおよび社会貢献を進めることを目的として、地域の拠点としてサービスの提供や生活困窮者への支援、地域の居場所づくりなど、具体的な貢献を考えていくために、地域包括の機能を法人本部に配置し、相談の拠点を増やすことを実施する。その他にも、医療と介護の連携についても検討し進めていくこと、介護人材対策として、学校との情報交換や外国人雇用についても検討し計画的な人材確保のシステム作りに取り組む年としたい。また、社会福祉法人制度改革に対応するべく、シャローム三法人とグループとしての強化を進め、法人の一本化も含めて検討することにも取り組んでいく。

これらのことを進めていくうえでも、現在行っている事業を、各部署がお互いを尊重し、協力し合っていき、高品質なサービスを行う事業として、また基盤のしっかりとした組織としていく努力も進めていく。法人として力を入れている看取りをさらに充実していくなど、新しく加わることとなったチャプレンとも力を合わせてスピリチュアルケアにも力を入れていく。

以上のことを、各課の課題に応じて、事業計画に取り入れ、具体的な計画としていくこととする。

【課 題】

1. サービスの質の向上に取り組む

- 1) 接遇・マナーの向上は引き続きの課題とし、質の高いサービスの提供を進めていきたい。そのために、PDCAサイクルを徹底していく。
- 2) もう一年リーダー育成に焦点を当て、マネージメント能力、コミュニケーション能力が向上できる、研修を計画的していく。そこから、組織全体のレベルアップにつなげていく
- 3) 障害分野への参入もあり、研修の内容なども高齢分野に特化せず、さまざま視点で幅広い研修を計画していく

2. 業務内容と設備の見直しを進め、利用者と職員の安心と安全、満足の向上を目指す

- 1) 職員間のコミュニケーションを大切にし、組織全体の方向性や課題に一人一人がかかわりを持ち、前向きに取り組める組織風土を作っていく。
- 2) ヒヤリハット報告の在り方について見直し、IT化もあわせて検討し、より実効性のある記録をしっかりと事故予防に活かされる記録とし、事故の検証なども取り組んでいく（継続課題）

- 3) 特養において、課題であった浴室増設を実現することにあわせて、入浴のシステムの再検討と職員の業務内容の再点検を行い、さらなる満足度の向上を目指す。
- 4) 感染症対策も、昨年度同様、感染症対策委員会（課長会）を中心に事業所全体で取り組みを強化し、徹底していく（継続課題）

3. 地域包括ケアシステムの構築につながる地域福祉の充実をはかる

- 1) 特養と在宅が連携し、事業所として地域包括ケアの構築に法人とし具体的に取り組んでいく。そのためにも、地域の実情を知り、すでに少しずつはじめている地域の自主グループの活動へのかかわりに加え、生活困窮者対策や、居場所づくりなど、高齢者にこだわらない活動を模索する。
- 2) 通所介護・訪問介護の新しい総合事業への移行に向けて、保険者や地域の社会福祉法人と協議しながらできること、やるべきことに取り組み実施していく。
- 3) 地域包括支援センターの窓口を増やし、住民の利便性を向上させる目的で、本部事務所内に地域包括スタッフを常駐させる。その中に生活支援コーディネーターを配置し、地域のニーズを把握し、地域の支援に協力していく。

4. 法人・施設の健全運営

- 1) 杉並区での障害児事業を東京衛生病院と連携して健全に運営する。今後もグループ企業としてより密接な関係となるべく努力していく。
- 2) 千葉事業所との定期的な法人経営委員会を実施し、法人全体の課題を検討していくとともに、三法人で協議を重ね、組織力を強化する方策を練り、法人の一本化も視野に入れて協議していく。
- 3) 現状で検討している課題を整理し、中長期計画を作っていく。
- 4) 介護職員実務者研修を現在実施している業者と協力し、シャローム東久留米を会場とする研修を開催することで、介護福祉士の資格取得を希望する職員を応援する。